

News Release

2021年11月25日
独立行政法人製品評価技術基盤機構
NITE(ナイト)
東北支所

暖房器具の事故に注意 ～ストーブ・ファンヒーターの事故が全国で毎年100件以上発生～ (東北版資料)

1. 事故の発生状況

12月も近づき、東北地方では朝晩の冷え込みも日に日に厳しくなってきました。また、合わせて毎朝の暖房は欠かせない時期となっています。これからの本格的な冬の訪れと共に寒さが増し、ストーブ・ファンヒーター^{※1}の利用時間が増えていく季節ですので、事故を起こさないよう十分に注意して頂きたいと思います。

NITE(ナイト)に通知された製品事故情報^{※2}において、ストーブ・ファンヒーターの事故が全国で100件以上発生し、死亡事故が毎年10件以上発生しています。

東北地区におけるストーブ・ファンヒーターの事故は、2016年度から2020年度の5年間に於いて39件発生しています。そのうち死亡事故が3件、重傷事故が1件、軽傷事故が2件発生しています。また製品の特性上、製品破損だけの事故は12件と3割で、7割は延焼による家屋の火災事故など拡大被害に繋がっています。

発生した事故のうち、石油ストーブのカートリッジタンクの蓋(フタ)のゆるみや、ガソリンの誤給油、石油ストーブが点火状態のままの給油等による事故が発生しており、使用上の注意をよく確認することで防げた事故が含まれています。

今年の冬はラニーニャ現象の発生などで、例年より寒い冬になるとの予報もあります。これからの厳しい冬を乗り切るためには必須なストーブやファンヒーター等の暖房器具について、「可燃物の近くでは使用しない」、あるいは「暖房機器はつけたままにせず、給油時には必ず消火する」、などの使用上の注意をよく確認して事故を未然に防ぎましょう。

(※1) 本資料では石油ストーブ、石油ファンヒーター、電気ストーブ及び電気ファンヒーターの4種をまとめて「ストーブ・ファンヒーター」と記述します。

(※2) 消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故に加え、事故情報収集制度により収集された非重大製品事故やヒヤリハット情報(被害なし)を含みます。



(イメージです。)

表1 ストーブ・ファンヒーターでの年度別事故発生件数

発生年度 \ 発生県	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	合計
2016年度	0	2	2	1	0	2	7
2017年度	1	0	2	3	1	2	10
2018年度	1	1	3	0	1	2	8
2019年度	0	0	3	1	0	1	6
2020年度	1	3	2	2	1	0	8
合計	3	6	12	7	3	7	39

表2 ストーブ・ファンヒーターでの事故の被害状況別発生件数

被害状況 \ 発生県	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	合計
死亡	0	1	1	0	0	1	3
重傷	0	1	0	0	0	0	1
軽傷	0	0	1	1	0	0	2
拡大被害	3	1	7	4	3	3	21
製品破損	1	3	3	2	0	3	12
被害なし	0	0	0	0	0	0	0
合計	4	6	12	7	3	7	39

表3 ストーブ・ファンヒーターでの事故の原因区分別発生件数

原因区分 \ 発生県	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	合計	
○	A: 設計、製造又は表示等に問題があったもの	2	1	2	1	0	2	8
	B: 製品及び使い方に問題があったもの	0	0	0	2	0	0	2
	C: 経年劣化によるもの	0	0	1	0	0	0	1
	G3: 製品起因ではあるが、その原因が不明のもの	0	2	0	1	0	1	4
事故製品に起因しない	D: 施工、修理、又は輸送等に問題があったもの	0	0	0	0	0	0	0
	E: 誤使用や不注意によるもの	0	0	2	0	0	1	3
	F: その他製品に起因しないもの	0	1	3	1	2	0	7
G1、G2: 原因不明のもの	2	1	3	2	1	3	12	
H: 調査中のもの	0	1	1	0	0	0	2	
合計	4	6	12	7	3	7	39	

2. 主な事故事例

○2017年1月16日 電気ファンヒーター(福島県、年齢性別不明)

事故内容: 当該製品を焼損する火災が発生した。

事故原因: 当該製品のヒーター部とリード線接続部のカシメ不良により、接続部が異常発熱し、出火したものと推定される。

○2017年1月27日 石油ストーブ(宮城県、70歳代男性)

事故内容: 当該製品を使用中、当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。

事故原因: 当該製品の油受皿からガソリンが検出されたことから、使用者がガソリンを誤給油したため、使用時の温度上昇に伴いカートリッジタンク内の内圧が上昇し、油受皿からあふれたガソリンに引火したものと推定される。

○2018年2月15日 電気ストーブ(宮城県、年代性別不明)

事故内容: 使用中の電気ストーブから発煙した。

事故原因: 長期使用(製造後約34年)により、ヒーター制御用のトライアックが故障したため、基板上の電気部品に過電流が流れて異常発熱し、焼損したものと推定される。

○2018年3月19日 電気ストーブ(青森県、20歳代男性)

事故内容: 当該製品を使用中、当該製品を焼損し、周辺を汚損する火災が発生した。

事故原因: 事故の原因は、当該製品の強弱切替え用に使用されているダイオードが不良品であったことにより、ダイオードが異常発熱し、出火したものと考えられる。

○2019年1月8日 電気ストーブ(福島県、70歳代女性)

事故内容: 電気ストーブ付近から出火して、周辺を焼損し、1人が死亡した。

事故原因: 配線に溶融痕が認められたが、一次痕か二次痕か特定できず、焼損が著しく、全ての電気部品を確認できなかったことから、原因の特定はできなかった。

○2020年12月30日 石油ストーブ(秋田県、50歳代男性)

事故内容: 当該製品の給油タンクを引き抜いたところ、灯油が漏れ、当該製品及び周辺を焼損する火災が発生し、1人が軽傷を負った。

事故原因: 当該製品は、カートリッジタンクの口金キャップが閉まったと誤認しやすい構造であり、使用者が給油後に口金キャップを確実に閉めなかったため、カートリッジタンクが本体から抜かれた際に口金キャップが外れてカートリッジタンク内の灯油がこぼれ、火がついた状態の当該製品に灯油が掛かり火災に至ったものと推定される。

3. 製品事故の実験映像につきまして

製品事故の写真及び動画をご希望の場合は、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

なお、映像をご使用の際、クレジットは「製品評価技術基盤機構+NITEのロゴ」としてください。

【編集人のつぶやき】

気象庁は11月10日に「ラニーニャ現象が発生したとみられる」と発表しており、今年の冬は寒い日になるとの予報が出ています。編集人は雪国育ちながら、雪の少ない地域での生活のほが長くなってしまい、寒さにはめっきり弱くなりました。早い段階からダウンベスト等は欠かさず、スラックスの下にももう1枚欲しいかな！？という時期も近づいてきました。

編集人も毎朝、目が覚めると、何はさておき、石油ファンヒーターへの点火が日課ですし、更に寒くなると、新聞を誰が取ってくるかじゃんけんなどして、ストーブから離れないよう努力します。犬を飼っていたころは、ストーブをつけると犬が布団から出てきて、ストーブ前に陣取って居ましたし、家の中に居ないと探せば、コタツの中に入っていたりしていました。寒さに強い犬！のイメージですが、やはりヒトも動物も暖かい場所のほうが良いのが本能のようです。

話はそれてしまいましたが、心も体も温まるこの便利な暖房器具を使う際は、可燃物を近づけず、使用上の注意をよく確認し、誤った使い方をしないよう気を付けることで事故を未然に防ぎ、この寒い冬を乗り切りましょう。

(本件に関する問い合わせ先)

〒983-0833 宮城県仙台市宮城野区東仙台 4-5-18

独立行政法人製品評価技術基盤機構 東北支所(略称:NITE) ナイト

責任者(支所長): 菊地 徹

担当: 齋藤(さいとう)、照井(てるい)、福井(ふくい)

電話: 022-256-6423

E-mail: jiko-tohoku@nite.go.jp

NITE
ホームページ



YouTube
公式チャンネル



Twitter
公式アカウント

